



## 仕事への誇り



国	籍	ベトナム
職	種	介護
実習実施者		株式会社ツクイ
監理団体		鳩の家協同組合

チャン レー トウオン ヴィ  
TRAN LE TUONG VI

私はベトナムの大学で看護を専門的に勉強しました。卒業する時に多くの友人はベトナムの病院で看護師として就職することを希望していました。そんな中で私はベトナムに介護の仕事がほとんどないのに、真剣に介護の仕事に興味がありました。友人の中には反対する人もいましたが、私は迷うことなく日本に行って介護を学ぶことを決めました。

日本に行く前の研修として今の会社の社員から介護の基礎を教わる機会がありました。私はその時、「介護は看護より簡単そうだな」と思いました。しかし、今の施設に配属となって実際に仕事してみると、すぐに私の考えが間違っていることに気が付きました。今から考えればすごく恥ずかしいですが、介護の仕事は甘く見ていたのです。介護の仕事は専門用語や介助方法など、日常業務で覚えなければならないことが山ほどあるだけでなく一人一人のお客様に対するケアの仕方も違います。中でも排泄介助はこれまでやったことがなかったので、慣れるまでには時間が掛かりました。お年寄りにとって排泄介助は大切ですから、しっかりと覚えることが求められます。介護の仕事をしていると、

嬉しいこともあるし、悲しいことだってあります。どんなに疲れていてもお客様から「頑張ってるね」「今日はヴィさんがいるから嬉しいわ」という励ましの言葉を聞くと、私自身もすぐに元気になります。時々、介護の楽しさって何だろう？と考えると、やはり介助した時にお客様から“ありがとう”や“すみません”というお礼の言葉をいただくことだと思います。

そんな介護の楽しさを少しずつ感じながら仕事に取り組んでいたある日、ベトナムの友人から久しぶりにメッセージをもらいました。ところが書かれていた内容に私はとてもショックを受けました。そこにはこう書かれていました。「お元気ですが。仕事は大変でしょうね。あなたの仕事は汚いんですよ。やっていて恥ずかしくないですか」と。私は悲しくなりましたが、正直な気持ちで友人に返信をすることにしました。「私は全然恥ずかしくないです。介護の仕事は排泄介助だけじゃないし、仕事は楽しいですよ。私は介護の仕事に誇りを持っています」私はそう書いて送ると、友人からの返信はありませんでした。

私はそのメッセージをもらって感じました。それはまだまだベトナムには介護の職業に対して誤解している人が多いということ。私はそのためにも出来るだけ長く日本で働いて将来帰国したら日本での経験や教わった知識を誤って認識している人に伝えたいと思っています。そのためにも介護福祉士の資格を取る目標を見失わず、これからも仕事に自信を持って取り組んでいきたいと思っています。

「時間を戻せるなら、あなたはもう一度介護の仕事を選びますか？」と聞かれたら、私は迷わず「はい」と答えるでしょう。それは私が誰よりも介護の仕事に誇りを持っているからです。